

## 所得と大学進学率の関係

山口凜子, 榎本寿理, 菊池悠真

(1) 延岡高等学校 Nobeoka High School

### Abstract

文部科学省によると、所得の多い世帯ほど大学進学率が高い。所得と大学進学率には関係性があるのかを都道府県別の平均賃金と大学進学率から読み取った。仮説として都道府県別の平均賃金と大学進学率には強い関係性があると考えた。六年分のデータを取ったところ、どの年も相

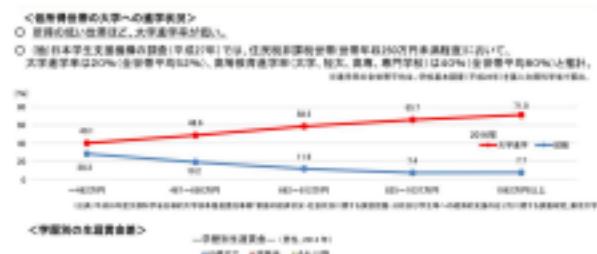
関係数0.75以上という強い正の相関が見られた。所得が大学進学率に関係していると言つても過言ではないと考察した。しかし、年々相関係数が減っていることから他の要因も考えられるのではないかと思い、地方の男女の進学率の差が縮まったことや親の学歴が関与しているのではないかと私達は考えた。だが、他の要因が多く考えられ、何が大学進学率に影響を与えているのかを身近なデータから出していきたい。

**Keyword** 都道府県別 / 平均賃金 / 大学進学率/相関

## 1. 序論

### (1) 研究背景

大学の補助金に関する制度から、お金が大学進学率に影響を及ぼしているのか、他の要因として何が考えられるのかを知りたかったから。



### (2) 研究の目的(or動機or意義)

出た結果から大学進学率を上げるためにどのような政策ができるのかを考えることができる。

また、進学を断念する人を減らすことにつながる。

・学歴による生涯賃金に大きな差が生じている

### (4) 研究仮説

都道府県別の平均賃金と大学進学率には強い正の相関があると考えた。

### (3) 先行研究

・所得が低い世代ほど大学進学率が低い

## 2. 研究方法

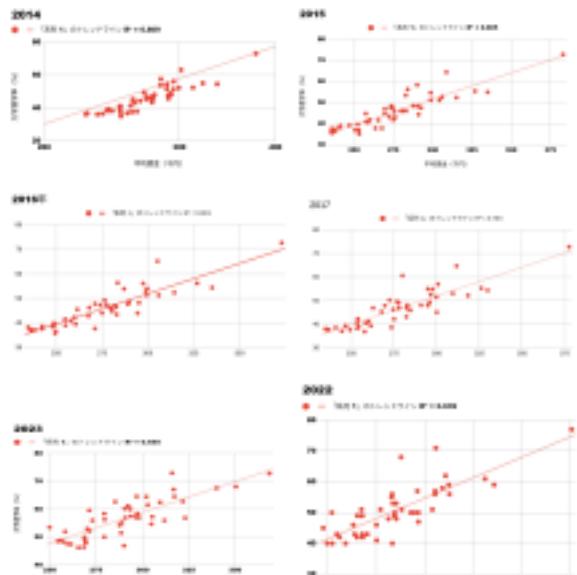
- ① 各都道府県の大学進学率と平均年収を調べ、グラフにまとめる。
- ② ①の結果から、大学進学率と平均年収にはどのような関係があるかを読み取る。  
またお金以外にどのような要因が挙げられるか考え

る。

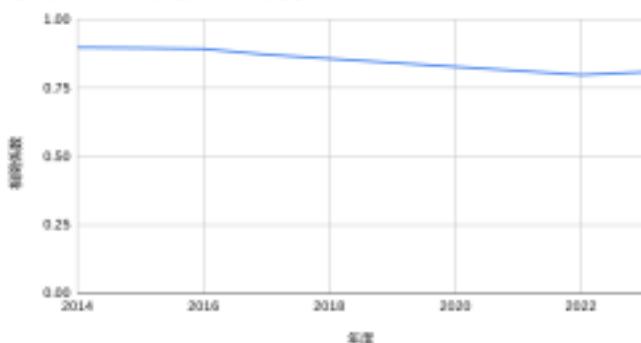
③その要因が本当に進学率の要因として挙げられるかを調べる。

令和5年度SDGs or STI課題研究 数学分野520班

### 3. 結果



平均賃金と大学進学率の相関



### 4. 考察

結果の折線グラフより過去六年分の平均賃金と大学進学率の相関係数は0.8付近なためこれは平均賃金と大学進学率には強い正の相関があると言える。よって仮説に立てたように平均賃金と大学進学率には強い正の相関があると言える。

また、結果の折れ線グラフより年々相関係数が低くなっているのがわかる。これは結果の最初の二つのグラフを見てわかるように平均賃金が低いところの大学進学率が高くなったので相関が弱くなったと考えられる。

つまり、お金以外の何かの要因が影響を与えているとわかる。この要因について考えた結果二つの要因が考えられた。

一つ目は男女差別の解消によって年々女子の進学率が上がっていること。

二つ目は親の学歴によって稼ぐお金の量がちがうので子供の導きのしやすさに差が出てしまっている。よってお金以外にもこの二つも考えられる。

### 5. 結論

平均賃金と大学進学率には強い正の相関がある。また、お金以外にも大学進学率に影響を与えている要因がある。

### 6. 謝辞

本研究の進行にあたり、指揮教官として終始多大なご指揮をしてくださった早田先生と寺崎先生にはこの場で感謝申し上げます。

### 7. 参考文献

文部科学省. 所得別の進学率、学歴別の生涯賃金. 所得別の進学率、学歴別の生涯賃金. 2018-02-19. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/132/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/02/19/1400916\\_0001.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/132/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2018/02/19/1400916_0001.pdf)

厚生労働省 賃金構造基本統計調査  
文部科学省 学校基本調査 より